

「驚き」の宝庫

横山健人



Torrance への派遣についてのお話は、高校時代の恩師の方からの紹介でした。僕は英語が好きでいつかアメリカに行きたいと思っていたので、とてもいい話だと思いました。選抜試験後、数々のミーティ

ングを経て8月1日、僕たちは日本を飛び立ちました。アメリカに着いたときまず感じたのは「気候」の違いでした。KIRAのミーティングの時に「Torranceの気候は暑いけど涼しい、カラッとしている。」と聞かされていましたが、実際に行って納得しました。ホストファミリーとの生活では、食生活、住環境、ライフスタイルの違いなど「驚き」の宝庫でした。僕にとってそれらは、忘れられない思い出となりました。3週間はあっという間に過ぎていきました。

Torrance生達が毎日、行事に参加してくれたので移動中のバスの中で会話をしたり、アメリカの遊びをしたり、joyfulな時間でした。何とか英語を駆使して会話を試みましたが、そこで感じたのは一生懸命勉強していた英語だが、外国に行ったらうまく伝えられないということでした。例えば「僕は法学を専攻してます。」と言いたくて「I major in Law.」と言っても肝心の「Law」が通じなくて困りました。要するに筆記能力があってもいざ外国人とface to faceになるとしゃべれなくなり、頭の中では「第三文型?? いや・・・うーん・・・ここは付加疑問文を使うべきか・・・」などと考えているうちに会話はストップしてしまうことが多々ありました。トーランスでの3週間を通して、自分の英会話能力の無さを実感しつつ、これからの勉強の励みことができました。

この派遣プログラムを通じて、トーランス生や、ホストファミリーの方々と出会うことが出来てとても嬉しく思うとともに、このプロジェクトがなかったら絶対会うことはなかったと思われるKashiwa35回生と信澤団長との出会いに本当に感謝したいです。